

E Z - W I N総合評価シート 2020.5.3 G 1天皇賞春 芝3200外 4歳上OP 15:45 想定RP指数 53-58

枠番	馬番	馬名	性別	年齢	負担重量	予想人気	調教偏差値S	調教偏差値A	パターン評価☆	自己最高値更新	前走比偏差値up	中間調教評価	脚質前走	脚質2前	脚質3前	血統・人気勝率	血統・人気複率	血統複勝回収値	前距離複率	騎手	調教師	前走不利	ハンデ	最高補正指数	RP指数好走レンジ		総合評価点数
1	1	モズベッコ	牡	4	58	5						D	10,2	6,1	10,1	20	40		29			**		97.4	51.4	58.6	26
2	2	エタリオウ	牡	5	58	6							6,7	5,10	5,9	5	24		0			**		100.3	55.4	59.9	19
3	3	トーセンカンピーナ	牡	4	58	8	D						8,1	6,7	13,1	7	30		0					95.8	53	60.1	26
3	4	ダンビュライト	セ	6	58	7	注						2,15	1,6	6,8	-	-	-	50			**		97.9	52	57.3	16
4	5	ミッキースワロー	牡	6	58	4							10,3	5,3	13,2	0	33		29					100.4	53.7	61.5	21
4	6	スティッフエリオ	牡	6	58	11							8,5	1,10	2,14	5	24		0					97.5	52.3	58.1	20
5	7	ユーキャンスマイル	牡	5	58	3							7,1	12,4	13,1	0	0		29					101.3	52.8	64.3	22
5	8	キセキ	牡	6	58	2							10,8	11,4	海外	-	-	-	29	\$		*		101.1	50	59.1	20
6	9	ミライヘノツバサ	牡	7	58	12							9,2	9,6	6,11	8	15		0					97.2	49.1	51.8	13
6	10	メロディーレーン	牝	4	56	13							5,4	14,5	8,3	0	10		0					94.0	54.9	54.9	15
7	11	メイショウテンゲン	牡	4	58	10							6,3	13,1	9,2	7	30		0					99.4	50.2	52.4	31
7	12	シルヴァンシャー	牡	5	58	9	C					C	11,3	6,7	10,1	7	30		50					97.5	51.9	53.2	34
8	13	ハッピーグリーン	牡	5	58	14							12,16	11,1	9,8	0	0		0					96.5	57	58.4	8
8	14	フィエールマン	牡	5	58	1							9,6	海外	9,1	40	65		-					103.3	57.4	62.2	29

京都芝 3200 は天皇賞春専用コース。サンプル数が限られております。  
このレースに関して言えば、EZ-WINの血統評価は鶴呑みに出来ぬ点もございます。

展開のカギはダンビュライトとキセキが握りそうですな。  
ダンビュライト騎乗の松若殿のこの馬への印象は「逃げてこそ」でございましょう。

元々スタートは上手い馬で、枠の並びからもすんなりと先手が濃厚  
。  
問題はキセキノの方でございましょう。

前走でもまたも出遅れてしまい、前をムキになって追いかけ、川田殿の制御がきかぬ状態。

たまたまポンと出れば、逃げてそこそこのペースを演出しそうでございますが…

武会長の手綱になる事で、好位で折り合いをつけるような柔らかみのある騎乗になるやも知れませぬなあ。

万一キセキが前走のような暴走モードに入ってしまうと、  
前に行く馬は相当厳しい展開に巻き込まれることになりましょう。

スティッフイリオは久々に北村友一殿に乗り戻り、恐らく好位で折り合いに専念。

まず可能性としては、ダンビュライトのマイペースとなりましょう。

となれば、ディーブ産駒よりもハーツクライが好む流れ。ですが・・・

今年はハーツクライ産駒が不在・・・

代用はステイゴールドかトニービンの血を持つ馬でございましょうな。

ステイゴールドの血を持つのは・・・

エタリオウ・スティッフイリオ・ミライハノツバサ・メロディーレーン

うむ・・・ ちょっと軸にしたいタイプはおりませぬなあ・・・

トニービンの血を持つのは・・・

ダンビュライト・ミッキースワロー・キセキ

キセキは現状気性のコントロールに大きな課題を抱える身。

いくら春天男が騎乗しても、気性難は解消しますまい。

なれば、ミッキースワローかダンビュライトですが、

ミッキースワローはディープ系種牡馬産駒で、輸送競馬にも不安あり。

ダンビュライトはルーラーシップ産駒としては初めての天皇賞春参戦で、適性があるかどうかは確信には至りませぬが…

祖母のキャサリーンパーから派生した牝系は、ダートの帝王クリソライトエリ女と宝塚を勝ったマリアライトの兄妹を出しておるように、主流から少しズレた適性を示しておりますな。

そして春天は、まさに非主流が穴をあける舞台でございます。

去勢明けの久々の競馬で息が持つかどうか？

一番の不安材料はそこにつきますが、そこはそれ、ノーザンファーム生産馬。

1年半ぶりの競馬でシャケトラを勝たせたように、放牧中にスタミナを強化できるノウハウを持っておりますれば、むしろ去勢効果で落ち着いたレース運びができる方に期待したいところでございますな。

キセキに暴走されるとどうなるか分かりませんが…

神ならぬ身に、そこまでの予知は不可能。

ただ、穴屋と致しましては・・・

ディープ産駒特有の「燃え尽き症候群」の予兆が伺えるフィエールマンは  
地力は抜けた存在ではありますが、なればこそ逆張りでリスクを取りに行くべきかと。

本命はダンビュライトに決めましてございます。